

協議会ニュース

44号

愛知県自然観察指導員連絡協議会 1993.3

月例観察会☆H5.2.7☆から（尾張支部）

降水確率が高く、昼までもつかどうか心配でしたが、予定の時間まではなんとかもってくれました。歩いているとやや汗ばむ、冬にしては暖かい一日で、瀬戸市街から正伝池に至る道路沿いのマンサク（一週間前には咲いていなかった）がきれいに咲いていました。寒暖の差はあるとはいえ、今年も暖かい冬だなあと思います。

鳥やロゼット、冬芽などを見ながら、ゆっくりペースで歩きました。



宮苅池への途中の神明神社では、椿のつぼみがころがっていました。手にとめて見るとかじったあとがあり、ムササビのしわざのようです。木の周りには、糞がいくつか落ちていました。この辺りには、ショウジョウバカマのロゼットがたくさんあり、よく見ると花のつぼみがロゼットの間からわずかに顔を覗かせていました。薄紫色の、春の色でした。帰り道で、コゲラをじっくり観察することができました。木の中にいる虫をどうして見つけることができるのか不思議です。音でしょうか。

次回、訪ねるときを楽しみに定光寺をあとにしました。（鬼頭 弘）

東三河支部総会報告

東三河支部 神戸 敦

今年の東三河支部の総会及び懇親会は、1月24日（日）、会員である梶野保光さんのご好意により静岡県三ヶ日町の奥浜名湖ホテルで開催された。例年と違う場所ということもあり、20人余大勢の会員が参加した。



▲ 総会風景

総会は中島副支部長の議長で行われ武田支部長の挨拶につづき本論の議案審議にはいった。まず、平成4年度の事業・会計報告、平成5年度の事業・予算が審議された。観察会の参加者をいかにして増やすかについては、多くの意見が出され葉書作戦等、新たな工夫をすることになった。慎重審議の結果、大筋で原案どおり可決した。続き、今年度は役員改選期ということで、長年にわたり東三河支部のため、大変ご苦労いただいた支部長の武田孝夫さん、副支部長の中島芳彦さんに代わり、会長に丸山嵩さん、副会長には間瀬美子さんが満場一致で選出された。前役員には労いの拍手が、新役員には激励の拍手が送られ、和やかなうちに総会は終了した。主な議決事項は以下の通りである。

★観察会

- 4月4日（日） 豊橋公園の自然観察会
(B班担当)
- 6月6日（日） 田原町権現の森観察会
(県下一斎・C班担当)

10月3日（日） 葦毛湿原観察会
(県委託・全員)

11月14日（日） 財賀寺周辺観察会
(A班担当)

★会員研修

8月7日（土）～8日（日） 一泊研修旅行
静岡梅ヶ島温泉・井川方面

8月22日（日） 東三河滝めぐり

11月13日（土） 鮎の産卵調査と芋煮会

なお、内容の詳しいことは、協議会ニュースに掲載する予定である。

総会に続き、懇親会がひらかれた。会場は場所をかえて大広間、しかも浜名湖が一望でき、目の前に磐島が見えるという最高の会場。



▲ 懇親会

早速乾杯で宴がはじまる。昨年一泊研修に参加されたSさん差し入れの日本酒もあり、皆大いに飲む。まさに東三河支部の体質をみる。いよいよMさんのカラオケがはじまる。KさんとSさんのデュエットなかなかいい。宴たけなわではあったが残念ながら時間でお開き。このあと、豊橋に戻り二次会に赴いた人もいたとか・大変楽しい懇親会でした。

(写真 中西 正さん撮影)

奥三河支部総会

1月31日（日）午前10時稻武町役場前集合
午前中は徒歩で町内の八幡神社の大杉や境内の自然植生の観察を始め、端竜寺の樹齢300余年の老大木、シダレ桜（県文天然記念物）、清流名倉川流域の自然観察を行い、正午頃ホテル岡田屋に到着。温泉で疲れをとり食事をしながら、なごやかな雰囲気で平成5年の総会を行いました。以下承認された事業等の概要を記しますと、

1. 全県一斉自然観察会 5月30日午前10時

奥三河総合センター集合 設楽町岩古谷自然観察会

2. 県委託による自然観察会 7月25日（日）

午前10時30分 JR飯田線うらかわ駅前集合 大入渓谷自然観察会

3. 支部主催による自然観察会 6月20日（日）

午前11時 田原町白谷漁協集合 姫島自然観察会

4. 支部役員改選（平成5年～6年）

会長 石川静雄（再任）

副会長 熊谷尚久（再任）

幹事 杉山茂生（再任）

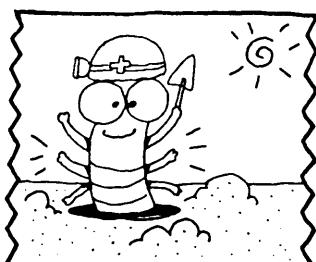
（本会）

運営委員 杉山茂生（再任）

編集委員 内藤宏美

樹木調査委員 熊谷尚久（再任）

以上、総会は午後2時頃無事終了。当日は稻武の安藤宏美さんにはたいへんお世話になりましたことを厚くお礼申しあげます。（会長）



★ 尾張支部総会報告 ★

尾張支部 平井 直人

尾張支部総会は、1993年1月10日、善師野での観察会を午前中に終えたあと、犬山市民文化会館に併設している犬山市南部公民館でおこなわれました。

総会の出席者は13名、飲物やお菓子がふんだんに用意され、途中で北岡さんの大白川のブナ林のスライド上映もおこなわれ、とても幸せな気持ちの総会となりました。

総会については、まず1992年度の観察会をおこなって感じたことを担当者に話してもらいました。次にそれをもとに、今後はどのような方針でおこなっていったらよいか、ということについて特に活発な意見交換がなされました。

1993年度の支部役員

・支部長	平井 直人
・副支部長	長谷川 洋二
・会計	松尾 初
・顧問	三輪 治代美
・友の会担当	吉田 義人
・発送係	北岡 明彦
	松尾 初
	西村 博
・通信員	伏屋 光信

1993年度の計画

交通の便がよく、観察会に参加しやすい定光寺、善師野の2ヶ所を中心にして、季節の変化を感じることのできる観察会をおこなう。また、県委託、全県一斉の観察会は共に定光寺でおこない、犬山市委託観察会は善師野でおこなうということになりました。

名古屋支部

活動予定

- ・ 3／20 春の観察会・猪高緑地
担当 朱雀英太郎 911-5087
 - ・ 4／11 湿地研究観察会・大森湿地
 - ・ 4／18 全国一斉湿地観察会
東山八事裏山
 - ・ 6／6 全県一斉自然観察会
東谷山
担当 福西寿広 912-8010
 - ・ 9／15 秋の観察会・猪高緑地
担当 布目 均 771-0396
 - ・ 10／24 県委託自然観察会
大高緑地
担当 近藤盛英 0562-93-6657
 - ・ 第2日曜月例観察会・大高緑地
担当 岩崎昇一 624-6496
 - ・ 第3日曜月例観察会・東山八事裏山
担当 鈴木晃子 834-2094
 - ・ 第4日曜月例観察会・相生山緑地
担当 近藤記巳子 822-7460
 - ・ 湿地研究会
担当 武田 篤 0564-21-2348
 - ・ 岳見高原自然観察会
担当 松井竇一 452-8159
 - ・ 上高地自然観察会
 - ・ 八事興正寺月例観察会
担当 森下京子 832-7232
- 今年度の役員
- | | | |
|-------|-------|----------|
| 代表 | 浅井聰司 | 703-9482 |
| 代表補佐 | 垣見 宏 | 732-3350 |
| 同代表補佐 | 越湖信孝 | 721-5704 |
| 会計 | 近藤記巳子 | 822-7460 |
| 例会担当 | 堀田 守 | 774-1196 |
| 顧問 | 朱雀英太郎 | 911-5087 |
| 同顧問 | 篠田陽作 | 881-4741 |

簡単なウッドクラフト ⑥

名古屋支部 椿 幹雄

間伐材を利用して身近に使われている箸を作つてみませんか？

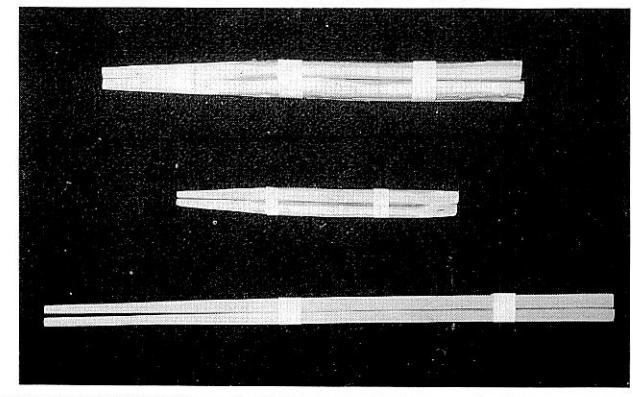
I. 準備品（1膳分）

- 1) 枝（直径10mm長さ230mm程2本）
使用材質（桧、杉、南天、竹）
- 2) 小刀（切れの良いもの）
- 3) ノコギリ

II. 作り方

- 1) 枝をよく洗い布で水分を拭き取る。
- 2) 削るヶ所を上側に順次回転させ四面手元から手前に小刀で削る。
- 3) 箸先は細くして角型か丸型か削り安い方を採択すると良い。
- 4) 箸先と元はノコギリで切り揃えて完成。

III. 駐れれば長い箸にも挑戦して作ってみるのも楽しいですよ。注意点として、害になるような樹木は使用しないようにしましょう。



「豊田市自然観察の森」からの便り

華やぐ早春の山野

尾張支部 長尾 智

去る1月30日、ミヤマウグイスカグラ（スイカズラ科）に、百個ほどの蕾を見つけましたが、その内の幾つかは既にほころびかけていました。花は普通4～5月に開くそうなので、随分と早いものだと驚きました。

当園には、マンサク・キブシといった早春の山を彩る樹木のないのが残念ですが、ひとつクロモジだけが、3月上旬から葉に先立って黄色の花をつけ始めます。

3～5月にかけての尾根筋には、コバノミツバツツジを先駆けとして、3種類のツツジが順次花を咲かせていき、華やぎます。

少し暗い林床には、3月上旬からショウジョウバカマが、4月上旬からチゴユリが、可憐な姿を見せてくれますが、明るい観察路わきや田の畦道には、何種類ものスミレの仲間が群落をつくるようになり、歩いていても退屈しません。

下の表に花の咲く時期を示しておきます。

種名	3月			4月		
	上	中	下	上	中	下
ツボスミレ				0	0	0
タチツボスミレ				0		
ニオイタチツボスミレ	0	0	0	0	0	0
アリアケスミレ				0	0	0
スミレ				0	0	
ヒメスミレ				0	0	0
フモトスミレ				0	0	
マキノスミレ	0	0	0	0	0	0



ニオイタチツボスミレ



マキノスミレ

—ムササビがかじった（？）椿のつぼみ—



—尾張支部月例観察会(H5.2.7)から—

愛 知 県 の 森 林

尾張支部 北岡 明彦

1. 愛知県の森林は今？

91年度末現在で、愛知県の森林率（県内森林面積÷県土全面積×100）は43%。全国の森林率に比較してずっと低く、全国第41位です。それに比較して、スギやヒノキを主とした人工林率（人工林面積÷森林面積×100）は64%に達し、全国の41%の1.5倍以上にも及びます。何と全国第4位の高い人工林率です。ちなみに全国第1位は高知県で67%，第2位は佐賀県で66%，第3位は福岡県で65%，第5位は宮崎県で62%となっており、九州・四国地方で人工林が非常に高いことが目立ちます。

この人工林率を市町村単位で調べてみると、改めて天然林の少なさにびっくりします。

市町村別人工林率・天然林率ベスト5

	人工林率	天然林率
第1位	津具村 90%	美浜町 89%
第2位	作手村 87%	一色町 88%
第3位	東栄町 83%	南知多町 87%
第4位	渥美町 79%	東海市 83%
第5位	豊根村 78%	半田市 81%

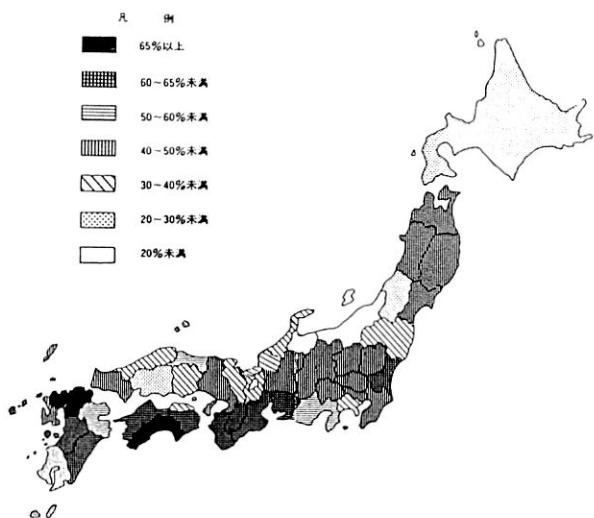
人工林率第1位は北設楽郡津具村でじつに90%に達します。面ノ木峠の天狗棚展望台から津具村を見おろすと、人工林ばかり目につくのもうなずけます。渥美町が79%

とたいへん高いのは、マツの人工林が多いのです。

一方、天然林率は第2位の一色町を除くと、知多地域の市町が独占しています。これらの地域ではスギやヒノキの生育が難しいため人工林化が進まないのだと思われます。

2. 過去30年間に森林はどう変化したか？

予想どおり、森林の大幅な減少が目立ちます。海岸の埋立により全面積は1万ヘクタール増加したのに、森林面積は2万ヘクタールも減少しています。実に瀬戸と春日井市を合わせた面積とほぼ同じ面積の森林が消滅したことになります。



全国各県の人工林率

情報コーナー

それに反比例するよう人工林は急激に増加し、人工林率は61年度には48%と半分以下だったのに、91年度には64%にまで増加しました。とくに北設楽郡・南設楽郡・東加茂郡で人工林化が急速に進みました。現在それらの森林は間伐（間引き）の遅れにより過密状態となったものが目立ち、森林の保全上の問題となっています。

3. これからの森林は？

戦後一貫して森林の経済性が最優先されてきましたが、今後は森林の持つ公益的機能（水を貯える能力・空気をきれいにする能力・やすらぎを与える能力など）や生態系保持機能を重視する面から天然林の見直しが図られるものと期待されます。みんなで守ろう、雑木林！

愛知県の過去30年間の森林変化

		全国 (1991)			愛知県		
		1991	1981	1971	1961		
全面積	千㌶	37,775	514	513	504	504	
森林面積	千㌶	25,212	222	227	232	242	
森林率	%	67%	43	44	46	48	
森林の内訳	人工林	(41)	(64)	(62)	(55)	(48)	
	天然林	(54)	(33)	(34)	(36)	(43)	
	竹林・原野	(5)	(3)	(4)	(9)	(9)	

資料：愛知県林業統計書（愛知県刊）
林業ハンドブック（日本林業技術協会編）

【出版物案内】

● 「小さな自然観察」

—こどもと楽しむ身近な自然—

発行：日本自然保護協会 思索社

2,500円

心と体の準備（子供と一緒に身近な自然を楽しむために）、身近な自観察、散歩の勧め、観察のチャンスを身近にする工夫、Q & A（10の秘伝）、子供と自然保護の考え方等

● 「矢作川の自然を歩く」

（流域の自然学シリーズ NO.2）

編著者：三津井 宏、池田芳雄

風媒社 1,380円

面ノ木峠、田之土里湿原、香嵐渓、猿投山、王滝渓谷、六所山、小堀西池、平原の滝、矢作川河口、佐久島等の案内

会員の動き

【加入】

戸田英一（尾張支部）

〒481 師勝町井瀬木高畑 42

フォーブル師勝 201

（0568-21-5384）

【脱退】

横山良哲（奥三河支部）

松原知永（西三河支部）

【住所変更等】

鈴木成和（尾張支部）

〒461 名古屋市千種区下方町 7-5-2

（052-722-7844）

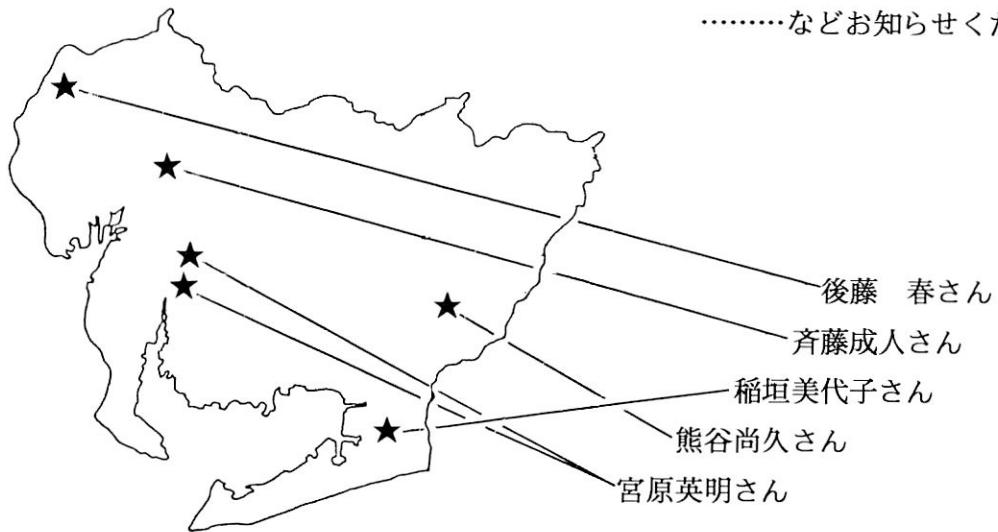
武田芳男（東三河支部）

〒441-13 豊橋市大岩町黒下 44

サンハイツ大岩 A 203

私の自然

いつもの風景　季節のこと
庭の植物　山のこと
海のこと　雑木林のこと
…………などお知らせください。



尾西方面のドングリの木 No.1

後藤 春

平成4年の11月頃から、尾西市の植物を調べ始めました。わが家を自転車で西へ西へと出かけ、緑のこんもりしているところを目指して走ります。やはり神社やお寺です。

まず驚いたことは、中神社（起工業高校の北東）の参道のサクラの紅葉の美しさです。ふと足が向き、社の西側へ廻ると、赤い実が目に映りました。葉のふちに細かく鋸歯があるカマツカです。細い幹の株立ちのが四株ありました。そしてその辺りが木陰になっていて、上を仰ぐとケヤキの大木とコナラの大木2本があります。コナラはまだ緑の葉も残しながら紅葉していく、ドングリも落ちていました。

また木曽川高校南東の神明社では、イチイガシがあり、途中の民家の庭にアラカシを見ることができました。アラカシは他の神社にもあります。

コナラ



名古屋市千種区平和公園農地コース

斎藤 成人

93年2月21日午前中。平和公園南部の緑地にて平和公園鳥類調査グループの実施するルートセンサスに参加した。当日観察した鳥種はキジバト12/8、シロハラ6/6、ヒヨドリ13/9、カケス7/5、アオジ9/7、メジロ1/1、ジョウビタキ3/3、ホオジロ5/4、ウグイス5/5、スズメ3/2、ヒガラ1/1、エナガ1/1 カワラヒワ2/1、モズ3/3、ツグミ4/4、カワウ2/2、シメ1/1、ハシボソガラス2/1。計18種（数字は観察総羽数／観察回数）

当日はハシボソガラスが新芽の出たアベマキの枝を折って巣材にしたり、エナガが巣材の羽毛を運んだりするのを観察した。繁殖が始まって鳥の世界も春になったと実感する平和公園であった。



豊橋市東小浜町

私の散歩道

H 5. 2. 16

稻垣 美代子

今日の散歩はしっかり目を見開いて歩かなくては・・・・・・と。

咲いている、咲いている、赤みがかった葉っぱが地面にぴったりのその上に重厚な黄色のタンポポ、ブルーが揺れるオオイヌノフグリ、そして10種も茎を伸ばしてペンペングサの白い花。三味線の形も出来ている。

キャベツ畠には葉っぱも艶やかに黄色のノボロギク、小さな俵型が鈴なり。小さな白い花をつけたハコベも蔓延っている。ノゲシの黄色も鮮やか。田の畦にはタネツケバナの白い花。いずれこの辺りも雑草がなくなるかも・・・と。

庭に植えたヒメオドリコソウが霜やけた葉っぱの上でピンクのドレスで踊っている。地面に這いつくばってよくよく見れば、トキワハゼの紫色がいいとしい。

門柱の影には黄色のカタバミが北風を避けて咲いていた。うっかり見落としそうな可憐な花ばなが春を待っている。

冬枯れの庭で真紅のボケが映え、植木の下ではカンアヤメが競って咲く。立春から二旬、一番寒いと言われる鬼まつりもすみ、もうすぐそこまで春が来ていた。

春を探しての楽しい一時でした。

・・・想い出・・・

『ペンペングサ』 七草粥はこの草だけ。

私の幼い頃、本当に地面に顔を出したばかりのこの草を掘り起こして七草粥に入れた。



セツブンソウ

早春の常道山

H 5. 2. 13 熊谷 尚久

三河の常道山（鳳来町）に早春の散歩に訪れたところ、麓を流れる清流をおおうように枝を広げて立っているタマミズキの高木を見つけた。樹高は10mあるいはそれ以上あるかも知れない。

冬の間に葉を一枚も残さず落とし、真っ赤に熟した小さな球形の果実が、枝の上に群がるように付いているさまは、形容しがたいほど美しい。また、個々の果実は、はなはだ美麗でかわいい。花はサクラというならば、果実はタマミズキであろう。和名：玉水木の玉は果実の美しさを言うのであるといわれている。

さらに進むと、枯れ葉の間にセツブンソウ（節分草）の花が数本咲いていた。多く咲き競うのはもうちょっと先になる。不揃い線形片の総包葉の上にある一輪の白花は、たいへん清々しくかわいい。まだ風は冷たくとも、暖かい陽射しいっぱいの山すそに咲き始めたセツブンソウの花が、ひと足先に、この三河路に春を運んできたようだ。



☆ 高浜市吉浜町 (貯木池)

93. 2. 6 宮原英明

久しぶりにゆったりできる土曜日の午後、仕事を終え、私のフィールドの貯木池にやってきました。ここはカモが10種類ほど見られる池で、バンやハマシギやサギの仲間もたくさんいます。

「西三河野鳥の会」のH氏が既に来ていて、プロミナーでのぞいています。二人でしばらく観察していましたが、突然、カモ、サギが一斉に飛び立ちました。

「鳥が一斉に飛び立ったとき、近くに人影はない、車もない、そんなときは上空を見よ」そのセオリードおり、上空にはオオタカの若鳥が舞っていました。猛禽が小鳥やカモを襲う大自然のドラマが観られるかと期待しましたが、へぼいオオタカの若鳥はカモに逃げられ、ゴイサギに飛び立たれ、とうとう私たち「観客」を喜ばせてはくれませんでした。10分ほど旋回して諦めたのか、衣浦湾の方へと飛び去っていってしまいました。

この日は、36種類の鳥を見ることができました。

☆ 刈谷市港町 境川河口

93. 2. 14 宮原英明

朝6時頃から境川の対岸の東浦町から花火の音が聞こえます。聞くところによると、稲荷神社で厄払いの祭礼のための花火だそうです。

この日は「境川自然観察会」の探鳥会だったので、花火の音が気になりましたが、カモをはじめ鳥たちが河口周辺にいたので安心しました。

9時半の集合時刻には13人の方がみえ、『伊吹おろし』の吹く寒い中を2時間ほど観察しました。境川浄化センター北の農耕地には、もうヒバリがさえぎっています。寒い寒いと思うのは人間ばかりで、野の生き物たちは季節の移り変わりを感じているのでしょうか。

いつもは30種類は見られるのですが、この日出会った鳥は全部で23種類でした。



展覧会のご案内

「生きものたちの暦」

(水彩精密画の世界) 辻 伸夫

安城市大山町2-14-9

☎0566-75-3522

・愛知県半田県民サービスコーナー

5/1-5/7 ユニー半田店C館2階

(第2・第3水曜休み)

☎0569-23-3900

・愛知県豊田県民サービスコーナー

5/27-6/3 豊田ソゴウB館4階

(火曜休み)

☎0565-34-6151

・愛知県岡崎県民サービスコーナー

6/16-6/23 シビコ岡崎店3階

(木曜休み)

☎0564-24-1858

・名古屋名城公園フラワープラザ

6/2-6/6 ななびらの会植物画展

☎052-913-0087

・ギャラリー夢

9/13-9/25 自然生物画譜

東京銀座1-5-5 相沢ビル

☎03-3564-6940

「生きものたちの暦」

*カラー郵便ポストカード 7枚セット

*1部 500円 (送料不要)

……郵便振替で申込を……

*口座番号 名古屋2-126255

*加入者名 辻 伸夫

LETTERS ON NATURE

境川通信

No. 29

1993. 1. 15

発行：境川自然観察会

人ととの出会いを大切にしたい

ホオジロガモ



1993年の幕開けです。今年は酉年で、いただいた年賀状の8割以上が鳥、とり、トリ。わたしの年賀状も鳥（ツルシギ）でした。この1年、どんな鳥に出会えるか楽しみです。

昨年は野鳥観察や自然観察を通して、たくさんの人々に出会えました。そして、それらの人たちからたくさんのこと教えていただきました。設楽町田峯でオシドリの保護運動を長年続けていらっしゃる伊藤さん、長良川河口堰の反対運動をしてみえる野々下さん、スマレの花を求めて日本国中をとびまわってみえる写真家の猪狩さん……。どの方も自然をこよなく愛し、守ろうとしている方々です。自然の素晴らしさにふれ、自然を楽しむとともに、人との出会いを大切にする1年にしたいと思います。

境川河口で、今年も月1回の自然観察会を行います。今年はどんな人たちに出会えるか楽しみです。最後になりましたが、今年も宜しくお願いします。

小鳥を庭に

昨年秋から、わが家の庭にシジュウカラがやってくるようになりました。11年も現住所に住んでいるのですが、シジュウカラは初めての「客」です。そういえば、刈谷市内で昨年からシジュウカラが目につくようになりました。理由はよく分かりませんが、しばらく観察を続けたいと思います。

さて、庭に小鳥がやってきて、その声で目を覚ますなんて最高の楽しみです。酉年の今年は、その楽しみを味わってみてください。方法は簡単です。ミカンの輪切りを木の枝に突き刺すだけで、ヒヨドリやメジロがやってきます。また、パンを小さく切ったものを台の上に乗せておくと、スズメやヒヨドリが食べにきます。肉の脂身部分をミカンのネットに入れてそれを木の枝に縛っておくと、シジュウカラが喜んでつづいて食べます。

居ながらにして、バードウォッキングが楽しめます。なお、この餌やりは、餌不足の冬季だけにしましょう。

鳥情幸民 1/1 ホオジロガモ (♂1) 境川河口の前川
1/2 ミコアイサ (♀1) 北刈谷の草野池

わが家の餌台



材料 矢崎パイプ
植木鉢用の皿

<宮原 英明>

LETTERS ON NATURE

犬山発自然情報

Natur ing №.46 より

1月28日この冬2回目の雪が降りましたが、29日には近くの農道の横で在来タンボボ2~3咲いているのを見ました。各地から伝わる花の便りはどれも暖冬を証明しています。伊良湖のナノハナ、沖縄のヒカンザクラ、各地のウメなどです。印象に残ったのは梅干しの産地の大分では、暖冬だと梅が不作になるというニュースです。生産者の方の話ではウメの受粉にミツバチを使うそうですが、暖冬で花が早く咲いても温度が低いのでミツバチが活動しないのが原因とのことでした。やはり平年並みでないと自然のバランスが良くないようで、今年も異常気象が続くのか気になります。

木曾川のオシドリとヤマセミ

鶴沼の武藤素さんから電話で1月17日連絡がありました。毎年木曾川のオシドリを観察されているのですが、毎年高山線の第一トンネルの対岸の栗栖集落近くでオシドリが観察できるのは春近くになってからと言うことですが、今年はもう出現したとのことで、10羽いるそうです。8時頃この付近でヤマセミを3日続けて観察されたと言うことです。また坂祝から見た栗栖の山のタマミズキの実に集まっていたアオバトも観察されました。

ハヤブサが観察されました

武藤さんから1月26日に木曾川の犬山橋上流域山で、ハヤブサを観察したと報告を受けました。木曾川に面したチャートの崖のある方で、城山荘のトンネルの場所の左上の崖にある松の木に止まったのを観察されたと言うことです。武藤さんはここで2羽観察されたとのことです。

木曾川下流のコハクチョウ

1月24日、木曾三川公園主催の探鳥会が木曾長良の背割堤で行われました。前日の予報で天気が心配されましたが、当日は晴れにはなりませんでしたが幸いに雨も降らなくて風もなく暖かい天気でした。1月自然観察指導員の近藤修さんが探鳥会の下見をされたときにも、木曾川で観察されたとのことでこの日も期待していました。期待にたがわずこの日はケレップ水制のなかの浅い場所で13羽のコハクチョウをゆっくり観察できました。内2羽は幼鳥で首の部分がグレーでした。この日に観察された鳥はこのほかカワアイサ、マガモ、カルガモ、ヒドリガモ、コガモ、オナガガモ、トモエガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、ハシビロガモ、カンムリカツブリ、カツブリ、アオサギ、ダイサギ、ハマシギ、シロチドリ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、セグロカモメ、ユリカモメ、カワウ、ツリスガラ、ツグミ、ホオジロ、ジョウビタキ、モズ、スズメ、ハシボソガラス、キジバトなど合計30種でした。

〈大竹 勝〉

第三回環境教育研究会 (地域運動による環境教育)

日時：平成5年2月21日

場所：春日井市都市緑化植物園

朝日新聞にも紹介されたためか、雨天にもかかわらず、47名（指導員は16名）の参加者があり、会場は熱気に包まれました。

会場である春日井市都市緑化植物園は、小さな動物園と植物園が合体した大変すばらしい施設で、今後の会の会議場として、会議室に植物園と野外フィールドがくついた一石三鳥の最適の場所だと思いました。さらに、植物園の職員も本会に理解があり、ぜひ自然観察指導員の講習会を受けたいと言っておられました。

当日はあいにくの強い雨のため、高森山の観察会を中止し、急いでビデオに切替ました。現地には行けなかつたのですが、昨年、伊藤浩氏のどんぐり作戦を紹介した朝の番組コケコッコー（名古屋テレビ）での五月の高森山の新緑と、たまたま20年前名古屋テレビが撮影して残っていて何も生えていない高森山との比較は、20年の歳月だけでもいっぱい森を作ることができることができました。

この後、高森山のどんぐり作戦の最大の指導者であった伊藤浩氏（元中学校校長、現市審議会委員）のスライドを使った講演をして頂きました。

伊藤浩氏の講演内容

高蔵寺ニュータウン内の高森山は、戦後の乱伐や山火事で、ススキ・ウンヌケだけの禿山でした。昭和46年山頂に展望台を作り、そこまで自動車道を建設する案が持ち上がりました。それに反対して、ニュータウン唯一の自然公園を作ろうと声をかけ、名古屋営林局の協力のもとに、地元の自治会、小・中学校の生徒やPTA、老人クラブの人達約500人の手で4万個以上のドングリが蒔かれました。これが「ドングリ作戦」です。さらに昭和48年には、土壤を作るため肥料植物オオバヤシャブシが500本植えられました。現在アベマキは13メートル、コナラは12メートルにまでなっており、そこが古生層の露出していた禿山とは信じられないくらいの状態です。

地元高森台に住んでおられる自然観察指導員の秋山さんは当時の貴重な切抜きを持参され、今回の老人会の記録ともども見て大変感動されていました。また、当時参加され、今は80才前後の老人は「あるのが当たり前ではない！自分たちがあの緑の山を作ったのだ。」と高森山の緑を誇りを持って眺めていると言うことです。

地元で自然に親しむ会などで活躍されている岩崎さんは、「入山禁止の立て札を立てないで欲しい。眺めるだけでなく、実際に山を歩くようななって価値がある。子供たちなどがどんどん入って、木に登るなどの遊びができる山にしてほしい。環境教育は、理科教育のように、教え込むことではなく、五感を使って感じるだけの自然体で良い。それによって子供の感性に何かを残したい」という環境教育論を話されました。

名古屋支部長の浅井さんは、生態学をやっている視点から、ただ自然を作るだけでなく、30年経つて大きく育った木は使ってやらなければならない。木を切って、炭・しいたけなどを作ったりする形で生産的なものにも、子供たちを経験させ、自然のサイクルの中に環境教育を組込んでみるべきだという意見を出されました。

名古屋社教の自然観察会で活躍されている篠田さんは、「雑木林としての良い自然を残すためには、間伐するなどして、手を入れなければならない。」と今後の展望を述べ、自然保護の根源にかかわる意見も述べられました。「元来、資本主義には、自然を守る費用は入っていない。しかし、近頃その価値観が、個人の考え方方が変りつつあるのと同じ様に、守るために金を使う方向へ変りつつある。」

櫛川さんは、このどんぐり作戦は、自然を対象として、町作りだけではなく、人作りまでもやってしまった特筆すべきものである。

文明が進んで、世界が広がったため、逆に環境が見えにくくなつてきている。例えば、自分たちの使う紙や電気はどこでどういう風にして作られるのかわからない。自分たちの食べるお米にも歴史があるのを知らない。過去の人達の努力で現在の便利な生活があるのを知らない。この様な状態の子供の将来は心配でならない。

子供は、自然からいろいろ学ぶべきである。枯れていくものでも命の輝きがある。見た目だけでなく、本当の自然の美しさを学ぶべきである。木の葉一つでも人の心を作ることがあり得る。

鬼頭さんは

豊田自然観察の森の様に、復元するだけでなく、そこに入る人を指導する必要があるのではないか。ただ緑が残っているだけでは、忘れ去られてしまう危険性がある。環境は範囲が広い。だから自分以外の物を認識する必要がある。環境教育とは、いろいろなものに接する機会を増やすことである。

そのほか14名の方から貴重な意見をいただきました。その中の年配の方からの環境教育に関する意見の一部を抜粋すると。

「環境教育は命を大切にする教育である。」「この世に有るものは命が有ると思え。だから使い切つてやることが必要である。」「自然観察会で心の豊かさを養つてほしい」

私自身、佐藤さんが法事で出られないでの、前日、議事進行の為、世界の環境教育を勉強してみたところ、イギリスでは有名なナショナルトラスト「自然環境を保全する」だけではなく、グランドワーク「身近な環境の再生と創造に向けて」の発祥の地であることがわきました。これは、身近な自然を守るだけではなく、より質の高い自然を創造し、地域の宝として、次の代へ、その自然を残そうとする運動です。

都市周辺部の自然が、開発によって荒廃しつつあるのを、住民自らが中心となって、行政と連係しながら、草の根運動で再生させ、豊かな自然と共に生きてる環境作りを高めていく。これが「都市の村おこし」と言われるゆえんです。イギリスはもうすでに環境教育の先進国になっています。それに較べると日本は遅れています。その日本にあって

「ドングリ作戦」は自然と人間の共生を見事に成功させた運動だと思います。(山田博一)

を置っている厚さのシダの生育状況から、森の「復興」の度合を調査。当時、地元の神山台小学校だった伊藤氏が「どんな作戦・當時とその後」と題し、生えてきた木の生長を見守った苦労や思い出を語る。その様は参加者で、環境保護そのための民間活動について意見を交換する。同会は、日本自然保護協会が認定する自然観察指導員の角度から考えてみたい。という。

県自然観察指導員連絡協議会が二十二日午後二時から、春日井市細野町の市都市緑化植物園で「ドングリ作戦」を主題とした研修会を開く。

寺ニュータウンにある高森山が開墾はげ山になつたため、地元の小学生がドングリ散布をもいて森を観察して、腐葉土が地表

【H.5.2.21朝日新聞】

人の手で取り戻した自然 高藏寺ニュータウンの「ドングリ作戦」 観察して意義を考えよう

きょう春日井で研究会

▶編集後記◀

★はじめまして！今回から編集をすることになりました尾張支部の伏屋光信です。よろしくお願いします。神戸 敦さんから引き継いで作業を始めましたが、慣れない仕事で、時間がかかりました。毎回きちんと発行されていた神戸さんがスーパーマンのように思いました。

★みなさんからいただいた原稿を一太郎（ワープロソフト名）で一字一字打っていくうちに、原稿をお書きになった方のお気持ちや、その場の様子がはつきりと見えてきます。何か愛知県じゅうのあちらこちらを歩き回ったような感じがしました。勉強になりました。ありがとうございました。

★今回から始まりました「私の自然」では、ふだん着の身近な自然をたくさん紹介していただければと思います。次回の発行は5月です。原稿締切は4月10日です。ちょっと間に合わないかなと思われてもどしどしあ送りください。

★原稿送付先

編集部会 〒491-02 一宮市奥町内込47-4 伏屋光信 ☎0586-61-4132



3月～5月の行事案内

★他支部の行事にも参加できますが、急な変更があるかも知れませんので照会の上、ご参加ください。

①主催 ②集合場所・時間 ③照会先 ④行事のテーマ・内容 ⑤参加費用 ⑥備考

「3月20日（土）～26日（金）展示会」

- ①物見山自然観察会 ②愛知日産の茶屋が坂ショールーム2F, 11～6時(26日は3時)
- ③物見山自然観察会☎82-2524
- ④海上の森を花・虫・鳥の里に！
- ⑥出品作品の即売あり

「3月28日（日）講演会と観察会」

- ①渥美自然の会 ②渥美町中央公民館10:00
- ③大羽康利☎053145-2607
- ④講演「周伊勢湾要素植物群の現状」仮題
講師 菊池多賀夫（東北大大学助教授）
シデコブシ自生地の観察（山中2時間）
- ⑥弁当持参、雨天の場合は観察会中止

「4月4日（日）野草観察会」

- ①知多支部 ②阿久比町丸山公園9:30
- ③相地 満 ☎052-671-4598
- ④春の野草観察と試食 ⑤200円
- ⑥弁当持参

「4月4日（日）定光寺観察会」

- ①尾張支部 ②定光寺参道前9:30
- ③吉田義人 ☎052-794-2814
- ④ハイキングしながら春を楽しむ
(ギフチョウが登場するかも?)

「4月9日（金）春の花木の観察会」

- ①知多支部 ②阿久比町中央公民館18:30
- ③相地 満 ☎052-671-4598
- ④春の花木とサンショウウオの幼体観察

「4月11日（日）大高緑地自然観察会」

- ①名古屋支部 ②大高緑地9:30
- ③岩崎昇一 ☎052-624-6496
- ④マメナシの咲く大森湿地の観察

「4月18日（日）県委託の観察会の下見」

- ①知多支部 ②富具崎港駐車場9:30
- ③中井康夫 ☎05694-3-0884
- ④磯の生物の観察 ⑥干潮10:06

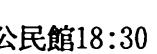
「4月18日（日）東山八事裏山自然観察会」

- ①名古屋支部
- ③鈴木晃子 ☎052-834-2094
- ④湿地観察会



「4月25日（日）ハイキング」

- ①物見山自然観察会 ②愛環山口駅10:00
- ③物見山自然観察会☎0561-84-2953
- ④春らんまん海上の森



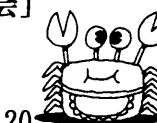
「5月6日（木）室内研修会」

- ①知多支部 ②阿久比町中央公民館18:30
- ③相地 満 ☎052-671-4598
- ④押し花デザイン ⑤300円
- ⑥野草は各自持参



「5月8日（土）県委託の観察会」

- ①知多支部 ②野間大坊9:00
- ③中井康夫 ☎05694-3-0884
- ④磯の生物の観察 ⑥干潮13:20



「5月9日（日）海浜植物観察会」

- ①知多支部 ②鬼崎港漁業会館9:00
- ③原、降幡 ☎0562-55-6855
- ④海浜植物と漂流物の観察
- ⑥仕分け用のビニール袋持参



「5月9日（日）大高緑地自然観察会」

- ①名古屋支部 ③大高緑地9:30

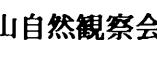
「5月13日（木）生物観察会」

- ①知多支部 ②阿久比町中央公民館18:30
- ③相地 満 ☎052-671-4598
- ④夜行性生物の観察 ⑤500円



「5月16日（日）東山八事裏山自然観察会」

- ①名古屋支部
- ③鈴木晃子 ☎052-834-2094



「5月28日（金）ヒメボタル観察会」

- ①知多支部 ②阿久比町中央公民館18:30
- ④室内懇談の後、ヒメボタルの観察



「5月30日（日）観察会の下見」

- ①知多支部 ②半田市立博物館
- ③榎原正躬 ☎0569-21-7000
- ④身近な自然の森観察会の下見

